

## 第 10 回超領域社会工学研究会報告書

2019年3月23日（土）13:00より朝霞市の加藤邸において第10回の研究会を開催しました。今回は2名の非会員の方の参加と共に、女性会員を中心とした“女子会”様の雰囲気の漂う中、女性ならではの発表と活発な議論が行われ、いつにもまして充実した研究会となりました。

研究発表内容は下記、

加藤香須美「「やさしい日本語」を利用した地域紹介の試み - 埼玉県を例として -」

「やさしい日本語」とは、簡易な表現を用いる、文の構造を簡単にする、漢字にふりがなを振るなどして、日本語に不慣れた外国人にもわかりやすくした日本語です。5月より埼玉県の親善大使としてタイに派遣される発表者が、埼玉県内の各都市の紹介文を例として、如何にやさしい日本語に置き換えるのが難しいかについて説明されました。さらに参加者全員で実際に例文を「やさしい日本語」で書き換える作業を行い、簡便化する難しさを実感し、改めて日本語の構造の複雑さについて再認識しました。発表者のタイでの日本語教育活動や日本文化の紹介など益々のご活躍が期待されます。

増子保志「洋食という日本料理 - とんかつ誕生への歴史的過程 -」

日本の食文化研究家としてブログ等で活躍されている発表者が“三大洋食”の一つである「とんかつ」を例として、その歴史的な変遷について考察されました。日本の食文化における外来食受容を4つの過程に分類し、「とんかつ」誕生の経緯の説明がありました。多くの日本の食文化は“物真似文化”と言えますが、中国や韓国では外来文化の影響による「洋食」は存在せず「とんかつ」は“創意と工夫”による独創的な和洋折衷料理であることが結論づけられました。

鈴木美喜「最近の若年層における雑誌トレンド」

『MYOJO』『Animage』『SMART』といった若年層向け雑誌の実物を持参され、参加者全員でその内容や装丁について、検討を加えました。最近の若年層向け雑誌の傾向として、私の青春時代の時と比べて、オールカラーで読みやすく“柔らかい”内容のものが多くみられる工夫がされているようです。雑誌が時代のトレンドを理解する上での重要なツールとして現在でも機能していることを改めて実感しました。

加藤鳳「モーションアニメーション制作過程における問題点」

現在、モーションデザイナーとして活躍されている発表者が日頃の制作業務の中での問題点を作成中のSFアニメーションを題材として検討を加えました。通常アニメーションでは1秒に24fpsで済みますが、モーションゲームでは細かい動きを出すために60fps必要で製作上との事。(fps:フレームレートの単位。動画を構成する個々の静止画の、1秒間当たりの連続表示回数を表す。動画のなめらかさを表す指標となる) 人気ゲームではキャラクターのみならずモーションも重要な要素であることが理解できたゲーム好きには有益な発表でした。

長谷部尚武「マンション高経年化への対応策について」

マンション管理の専門家であった発表者によると現在、築40年くらいのマンションに問題が多く存在しているとの事です。問題点として、マンションの高齢化と賃貸化は区分所有者の不在という状況となり、管理不全の要因となること。管理組合役員の成り手が少なくなることから管理意識が希釈になり、さらに問題が複雑化していることが指摘されました。対策として、管理が困難な分野における“マンション管理士”など専門家の登用が一つの方策として示されました。人間の高齢化のみならず住居の高齢化も今後、考えていかなければならない重要な事案であることが再認識されました。

草野純子「キャベツ効果の実体験報告」

看護学の専門家である発表者の自己体験に基づく報告で、ヘモグロビンA1Cが上昇したことから「吉田式食前キャベツ」という(①毎食前に生のキャベツを6分の1食べる②5cm角に切る③10分間よく噛んで食べる。)方法を3ヶ月実践した結果、数値が大きく減少したとの事です。キャベツには免疫力アップや赤血球を作る成分、細胞の代謝を促進する成分が含まれ、余分な糖を排出する成分も存在することから生活習慣病の予防や胃の保護、美肌効果も期待出来るとの事です。食前キャベツはとんかつを食するときに良く行いますが、これからはあらゆる場面においても実践したいと思います。

今回も多彩な分野の発表が行われ非常に充実した研究会となりました。

研究会終了後の懇親会は北朝霞の「もつ焼き 松」で行いました。庶民的なお店で研究会での緊張感を和らげ、美味しい「煮込み」や「レバー焼」を食し、いつもながら研究会以上に盛り上がった懇親会となりました。

次回は6月29日に開催予定です(場所は未定)。

(研究部会長 増子保志)

